

長嶺ヤス子

# 夜やけ雲



知らん顔してお茶碗かいたのは私……

演出・池田瑞臣

平成30年5月22日(火)

午後6時開場

午後7時開演

新宿文化センターハレール

TEL.03(3350)1141

全席指定

A席 1,500円

B席 5,000円

チケットのお申込み先

TEL.03(6233)7937

メール info@nagamineyasuko.com

小さい時、夕焼け雲をみて泣きました。  
真赤な雲がこわかったのです。

歩きつづけて流れながら悲しいときも嬉しいときも  
わらべ唄で育つた幸せを感じていました。

おばあさんがよく話して聞かせてくれました。  
夕ぐれまで遊んでいると、人さらいが来るそうです。

カラスが鳴く月夜を歩くと  
音歌ったわらべ唄がいつもきこえます。  
貧しいけど ゆたかで 幸せだったと…

友達がみんな帰つてしまつたのに私はひとりで、  
石けり遊びをしていました。  
田舎のどこぞの石は小川に落ちました。  
ボトンという音はどうも暗くて、それで夜になりました。

急におとなになつてしまつてむなしさに  
体じゅうがいたります。  
何も知りたくないかったのに  
いろんなことを見つてしましました。

優しいお父さんに叱られで嘘をつきました。

おばあさんと

圓舞さまがこわい顔をして、私を待つている夢をみました。

死んでしまつた私の子供たらが話していました。

私も洗いぬいたいな錢湯に毎晩いました。

お母さんの長くて黒い髪がきれいでました。

赤いくつとはひでた女の子のように  
いつか誰かに獲はれたいと思いました。

やつぱりまだ前に生きつきました。

子供の頃を思い出しながら、一生懸命生きました。

急にどしゃぶり雨になつてみんなの顔がぬがみました。

おばあさんの顔も

子供たちの顔も  
でも涙が流れたその顔でした。

どれもどれもわたしの顔でした。

夕焼け雲も融けていました。

遠くで誰かがわらべ唄をささやいています。

聞こえきぬける風の音だったのかもしれません。



## 演奏

笛	藤倉貴生	ピアノ	花井 研
鼓	藤倉清之	ギター	川口真人
尺八	武井 誠	キーボード	井高 寛朗
津軽三味線	堀尾泰磨	ベース	クリストファー・アーチャー

## スタッフ

振付	池田瑞臣	和田寿子	坂本義美
照明	加登屋レコーグ	明馨	デイシング
舞台監督	小林正明		